



医学生の外科分野への関心を高めるため、鹿児島大学医学部脳神経外科(有田和徳教授)は、同大鶴陵会館で「外科手術体験セミナー(マイクロサージャリー)」を開いた。手術用器具を手にした学生たちは、本番さながらに動物の脳や骨と“格闘”した。写真。参加したのは同学部2～5年生と初期研修医ら約20人。学生は高

鹿児島大脳外科で手術体験セミナー

精度の手術用顕微鏡を見ながら、豚の脳の硬膜を手術用器具ではがすといった手技を体験。高速ドリルによる骨切りのほか、直径約1ミリの疑似血管を極細の糸で縫合する技術など、最先端治療の基本を学んだ。

学生は真剣な表情ながらも、力の入れ具合がつかめないなど悪戦苦闘の様子。5年の武裕士郎さん(23)は「脳は思ったよりも繊細で軟らかい。器具の圧力が強かったりして動脈や静脈を切ってしまう、人なら大出血のところだった。技術を磨き、人命を救いたい」と決意を新たにしていた。